

「みらいノート」の活用推進と改訂版の検討

◆みらいノート活用推進への取組

これまで主に高齢者を対象に「みらいノート」の周知を行った。
が、今年度は高齢者だけでなく障害者施設や介護者の会に対して啓発を行った。

<工夫した点>

- ・みらいノートの周知だけでなく、地域包括支援センター及び権利擁護についても周知した。



<実績（令和6年12月時点）>

- ・講座開催回数：10回
- ・講座参加人数：181名
- ・東近江市健康フェアでの啓発
認知症啓発（タッチパネルを使った脳の元気度チェック）を合わせて実施
- ・ウェルカム事業でみらいノートを啓発(参加者175名)



◆みらいノート改訂版への取組

(令和7年3月頃発行予定)

<見直しの理由>

- ・現行のノートは、記載項目が多い。
- ・白黒調であるため見にくい、書きにくい、書きたいという意欲が湧きにくい。

<改訂に向けての取組>

- ・記載項目の整理とカラーで作成
- ・記入しやすいように、書き方の「ワンポイントアドバイス」を至る所に散りばめた。
- ・希望が持てるような内容も取り入れた。

もくじ	
みらいノートについて	1
第1章 わたし自身のこと	2
自分の歴史	3
ペットについて	4
家系図	7
私の家族や大切な友人・知人の連絡先	8
第2章 病気・介護について	9
第3章 成年後見について	10
第4章 財産・資産について	12
第5章 葬儀・お墓について	13
第6章 相続・遺言	18
第7章 たいせつなあなたへ	19
第8章 高齢者の相談窓口	20
	22

◆令和7年度の取組

- ・現行のみらいノートでも、知り得ていない人が沢山おられるため、知ってもらうための啓発活動を行う。
- ・啓発の方法について検討する。（具体例：病院の地域連携室との連携、ちょっとしたきてえな講座等）
- ・ホームページでダウンロードができるよう検討する。
- ・周知の対象者の検討を行う。

「災害時における要介護高齢者等の避難誘導について」の研修会実施

◆地域密着型サービスの避難訓練に参加し、地域住民から「災害時に車いすを使うと時間がかかる。有効的な避難誘導方法はないのか」との意見があり、研修を企画した。

<工夫した点>

- ・能登川地域の全介護保険サービス事情所約27カ所に案内を出すと共に研修内容について事前に説明をした
- ・講師は専門家である能登川消防署に依頼
- ・研修終了後アンケートを実施

<実績・結果>

- ・25事業所57名参加。ほぼ全ての事業所が役職者と一般職とで参加
- ・アンケートから、「勉強になった」等のコメントが多かった。
- ・報知新聞に研修を取り上げてもらうことができ、取り組みを住民に知ってもらうことができた。
- ・移動技術の向上と顔の見える関係が築けた。
- ・顔の見える関係づくりが行えた。



◆令和6年4月介護保険改定

業務継続計画（BCP）の策定が義務化された
年1回の研修及び訓練の実施、関係機関との連携等に努めることと明記された。（抜粋）

◆「能登川圏域内居宅介護支援事業所における災害机上訓練を実施」

発災5日目を想定し利用者の安否確認訓練を実施した
訓練を実施するにあたり、災害時に利用者の安否確認を誰と行うかの確認、見直しを事前に出来たことが良かった。

利用者の安否確認後、各居宅から能登川包括に連絡が入り、その後東近江市包括に連絡を入れた。

【令和7年度の取組】

地域、サービス事業所等の声に対して関係を築けるよう
参加型研修の企画運営

東近江市通所型サービス C（能登川地区）開始

◆年間3クール 1クール12回で実施
対象者：事業対象者 要支援1 要支援2
（6名以上の参加でサービス提供可能）

<工夫した点>

- ・事前に勉強会を実施
- ・対象利用者の選定に過去の相談記録より声掛けを実施
- ・自立型地域ケア個別会議の活用



<実績・経過>

- ・3クール合計参加人数
28名
- ・カンファレンスの開催
100%
- ・第1クール参加者の
追跡調査実施中



◆通所型 C の目的

要介護状態となることの予防及び生活機能向上を目的とした介護予防プログラムを実施することにより、地域における自立した日常生活の活動を高め、家庭や社会への参加に繋げる。

◆自立型地域ケア個別会議の実践

「地域で生活をするためには？」 「自立した生活を送るためには？」 の視点で会議を実施

初回カンファ（目標設定）

中間カンファ（目標の見直し、方向性の確認）

終了カンファ（卒業後の生活）についてを
地域ケア個別会議を活用し生活支援コーディネーターや専門職、行政が入り会議を実施

通所サービス C 卒業3か月後の生活について追跡確認を実施

【令和7年度の取組】

- ・「自立型地域ケア個別会議」からの「地域ケア推進会議」を実施し「地域課題の解決」に取り組む。
- ・「フレイルの視点」、「予防の視点」からの自立へ向けた取り組みの継続

認知症啓発 ・ 地域のケアマネジャーとの連携

◆スマイル・オレンジ・五個荘

地域のサロンや、集いの場に出向き、介護予防体操や認知症に関するクイズなどにより、認知症の啓発を行った。

<実績（令和7年1月時点）>

- ・五個荘小幡町
- ・五個荘山本町



◆認知症行方不明者早期発見・保護訓練

「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」をメインテーマに、五個荘地区で毎年行われている住民参加の訓練に行方不明者役として参加した。令和7年度は、この訓練を主催している「ごかしょう安心サポート委員会」の委員として参加する。



◆五個荘地区ケアマネ会議

令和6年8月から、五個荘地域の居宅介護支援事業所のケアマネジャーと連携会議を開催している。災害時のBCPについて、行政・地域のケアマネ・サービス事業所が一体となって支援が出来るように検討している。年4回開催する予定

【令和7年度の取組】

管内27自治会のサロンへ等に参加し、地域との交流を深めるとともに、地域のケアマネとの連携し、住民がいつでも住み続けられる「まちづくり」「地域づくり」の一員として活動していく。